

「理学療法学生および作業療法学生における 職業イメージとモチベーションの検討」第2報

—職業イメージとモチベーションの関連—

武井圭一¹⁾ 和田佐和子²⁾ 久保日向²⁾ 糸井睦絵²⁾

Investigation of Image for their future jobs and motivation to be professionals in Physical therapy students and Occupational therapy students —The relation between the image and the motivation—

Keiichi Takei, Sawako Wada, Hinata Kubo, Mutsue Itoi

抄 録

本研究の目的は、当大学における理学療法学生および作業療法学生の職業イメージと、理学療法士または作業療法士になることに対するモチベーション（以下モチベーションという）の関連を検討することである。当大学の理学療法学科、作業療法学科に所属する1学年から3学年の521名に対してアンケートを実施し、職業イメージおよびモチベーションについて Visual Analogue Scale (VAS) を用いて測定した。その結果、両学科ともに2学年における職業イメージとモチベーション間の相関係数が、1学年よりも低値であった。また、両学科ともに3学年における相関係数が最も高値を示した。このことは、正確な職業イメージがある程度まで確立された段階では、職業イメージがモチベーションに影響を及ぼしてくることを示唆していると考えられた。

キーワード：理学療法学生
作業療法学生
職業イメージ
モチベーション

1) 健康科学大学理学療法学科

2) 健康科学大学作業療法学科

1. はじめに

現在、わが国では急速な高齢化が進んでおり医療、福祉に携わる専門職の必要性が高まっている。それに伴い、リハビリテーション専門職養成校の増加、また定員数の増加により理学療法学生（以下PTS）および作業療法学生（以下OTS）の数は急増している。さらには、各養成校における入試選抜方法や学習環境の幅が広いことから、現在のPTS、OTSの抱く志望動機や将来像は多様化していると考えられる¹⁾。このような学生の変化について、これまでに志望度や職業イメージを調査した報告が散見される^{2),3)}。我々は、第1報においてPTSとOTSの職業イメージと各専門職を目指すことに対するモチベーション（以下モチベーションという）に注目し、当大学におけるPTS、OTSが抱く学年ごとの職業イメージとモチベーションの現状について報告した⁴⁾。しかし、第1報では職業イメージとモチベーションの関連については検討していなく、モチベーションに対する職業イメージの重要性を明らかにすることは、今後の教育方針を検討していく上で重要な資料になると考えられる。

本研究の目的は、当大学のPTSおよびOTSの職業イメージとモチベーションの関連について学科、学年別に検討することである。

II. 対象および方法

i. 対象

対象者の内訳を表1に記す。対象は、当大学の理学療法学科および作業療法学科に所属している1学年生から3学年生のうち、アンケートの全項目に回答が得られた521名とした。尚、対象者には事前に本調査の目的を十分に説明し、同意の得られた場合のみアンケートへの回答を依頼した。

表1.対象者の内訳

	理学療法学科		作業療法学科	
	n	年齢 (歳)	n	年齢 (歳)
1 学年	79	19±1.9	91	18±1.7
2 学年	90	20±2.7	81	20±8.9
3 学年	93	21±1.5	87	21±2.3
全体	262	20±2.2	259	20±5.3

年齢：平均±標準偏差

ii. 方法

調査は、アンケート用紙を用いて集合調査法にて実施した。調査項目を表2に記す。各学科に該当する職業イメージについて「理学療法士に対するイメージがはっきりしていると思う」、「作業療法士に対するイメージがはっきりしていると思う」、モチベ

ションについて「理学療法士になりたい」、「作業療法士になりたい」を調査した。測定方法は、Visual Analogue Scale (以下 VAS) を用いて、0 mm を「全く思わない」、100 mm を「とても思う」と設定し、1 mm ごとの尺度とした。加えて、「理学療法士に対するイメージ」、「作業療法士に対するイメージ」について自由記載にて回答を求めた。また、調査は4月に実施し、対象者は各学年における履修科目を学習する前段階の状態とした。

表2. 調査項目

職業イメージに対する項目	回答方法
理学療法士に対するイメージがはっきりしていると思う	VAS
作業療法士に対するイメージがはっきりしていると思う	VAS
理学療法士に対するあなたのイメージ	自由記載
作業療法士に対するあなたのイメージ	自由記載
モチベーションに対する項目	
理学療法士になりたい	VAS
作業療法士になりたい	VAS
その他の項目	
自分や家族がリハビリを受けたことがありますか？	2項目選択法
家族で医療・福祉関係の仕事をしている人はいますか？	2項目選択法
医療・福祉関係のボランティアをした経験がありますか？	2項目選択法
受験の際、医療・福祉系その他学科を併願しましたか？	2項目選択法
趣味やクラブ活動などでスポーツの経験はありますか？	2項目選択法

iii. 分析

VASの結果については、指定の定規を用いて2名の検者がそれぞれ計測した。また、各学科、学年ごとの職業イメージとモチベーションの関係についてピアソンの相関係数の検定を用いて検討した。分析には、統計ソフト SPSS for windows ver. 14.0を用いて、有意水準は5%とした。

III. 結果

i. 各学年における職業イメージおよびモチベーションの平均値

各学年の職業イメージおよびモチベーションの平均値を表3、4に記す。学年間を比較すると、職業イメージではPTSにおいて1、2学年はほぼ同様で、3学年で高い結果を認めた。OTSでは、学年が上がるごとに高い結果を認めた。また、モチベーションでは、両学科ともに全学年においてほぼ同様に高い結果であったが、2学年において最も低値であった。

表3. PTS における職業イメージおよびモチベーションの平均値

	n	職業イメージ	モチベーション
1 学年	79	58±21.8	94±10.4
2 学年	90	58±23.5	94±13.6
3 学年	93	78±13.9	93±9.3

平均値±標準偏差
単位：mm

表4. OTS における職業イメージおよびモチベーションの平均値

	n	職業イメージ	モチベーション
1 学年	91	54±21.9	89±13.3
2 学年	81	65±22.9	85±19.3
3 学年	87	70±21.3	86±16.1

平均値±標準偏差
単位：mm

ii. 各学年における職業イメージおよびモチベーションの関係

各学年の職業イメージおよびモチベーションの分布を図1-6、相関係数を表3に記す。相関係数は、PTSでは1学年において $r=0.31$ ($p<0.01$)と有意な弱い相関を認め、2学年では $r=0.01$ とほとんど相関がなく、3学年では $r=0.41$ ($p<0.01$)と3学年間で最も強い有意な相関を認めた。

OTSでは、1学年において $r=0.31$ ($p<0.01$)と有意な弱い相関を認め、2学年では $r=0.25$ ($p<0.05$)と1学年よりも弱い相関となり、3学年では $r=0.47$ ($p<0.01$)と3学年間で最も強い相関を認めた。

表5. 各学年における相関係数の結果

学科	学年	n	r
PTS	1 学年	79	0.31**
	2 学年	90	0.01
	3 学年	93	0.41**
OTS	1 学年	91	0.31**
	2 学年	81	0.25*
	3 学年	87	0.47**

** : $p<0.01$ * : $p<0.05$

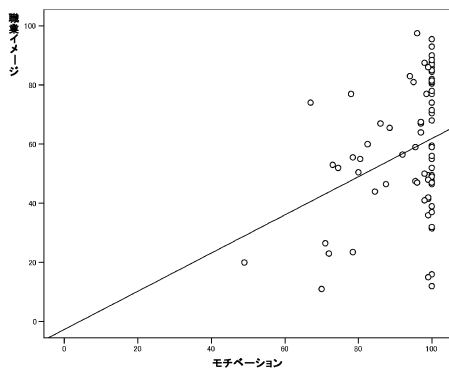


図1 PT 1学年生の結果

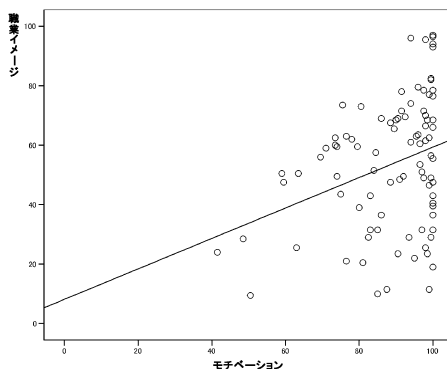


図4 OT 1学年生の結果

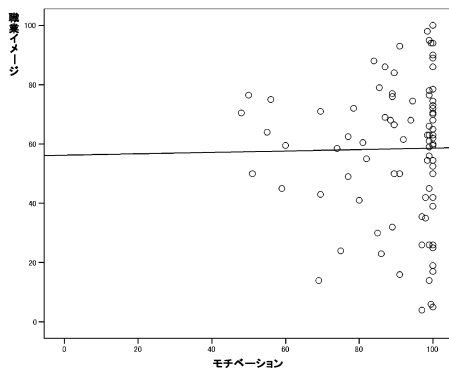


図2 PT 2学年生の結果

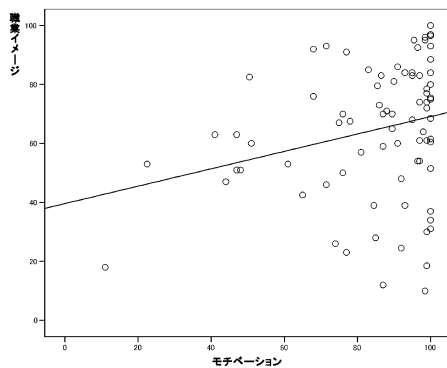


図5 OT 2学年生の結果

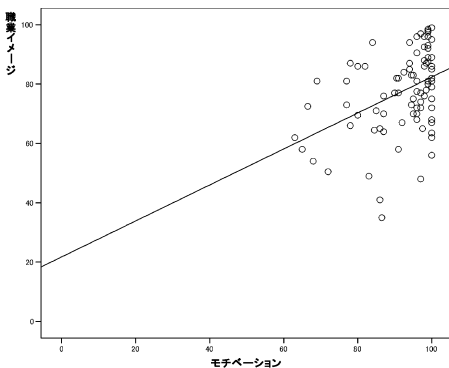


図3 PT 3学年生の結果

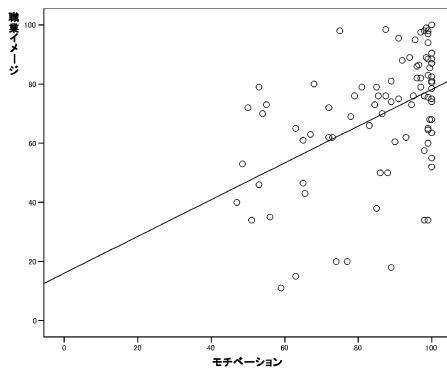


図6 OT 3学年生の結果

IV. 考察

本研究は、当大学のPTSおよびOTSの職業イメージとモチベーションの関連を検討することを目的に、1学年生から3学年生に対してアンケート調査を実施した。

その結果、各学年の職業イメージとモチベーションの相関は、PTSおよびOTSともに1学年よりも2学年の方が弱く、3学年において最も強い相関であった。これは、1

学年においては入学当初の新しい学習環境への期待から、職業イメージの程度に関わらずモチベーションが高い傾向となったため、弱い相関を示したと考えられた。また、2学年においては、まだ具体的な理学療法士像、作業療法士像が形成されてなく職業イメージの程度を正確に反映していなかったことから、職業イメージが高くてもモチベーションが低い者の割合が多くなり、1学年よりも弱い相関を示したと考えられた。郷ら²⁾は1学年から3学年におけるPTSのモチベーションを縦断的に検討した結果、1学年におけるモチベーションが最も高かったと報告しており、本研究の結果を支持するものである。3学年においては2年次に実施される障害を有した方に対する初めての実践的な実習を通して、本来の理学療法士像、および作業療法士像を確立させる一助となったことから、他学年よりも高い相関を認めたと考えられた。

また、今回の結果では全学年において0.5以上の相関係数を認めなかったが、これはモチベーションが全体的に高い結果に大きく偏っていたことによる影響が考えられた。

これらのことから、正確な職業イメージが確立されてくる段階においては、職業イメージがモチベーションに影響を及ぼすことが考えられ、職業イメージはPTS、OTSの学習意欲を高めるための重要な指標になる可能性が示唆された。今後は、臨床実習前後での職業イメージおよびモチベーションの変化について縦断的に検討していきたい。

引用文献

- 1) 内山靖, 山路雄彦: 理学療法学教育における実践能力を高めるカリキュラム. PTジャーナル Vol. 39 No. 2, 119-129, 2005
- 2) 郷貴大, 有馬慶美, 平林弦ら: 理学療法学生の理学療法士志望度変化について. 東北理学療法学 No. 10, 73-77, 1998
- 3) 白井瑞子, 井関敦子, 内藤直子: 医療・福祉職をめざす大学生の職業イメージと背景要因の関連. 香川医科大学看護学雑誌 Vol. 8 No. 1, 27-35, 2004
- 4) 和田佐和子, 久保日向, 糸井睦絵ら: 「理学療法学生・作業療法学生の職業イメージとモチベーションに関する研究」第1報-イメージの明確さとモチベーションの学年間比較-. 健康科学大学紀要 No. 2, 77-88, 2006

Abstract

The purpose of this study is to investigate the influence that the image of physical therapist (PT) or occupational therapist (OT) gives to the motivation for to be PT or OT. 521 students who are in grades one through three in the department of physical therapy and occupational therapy in our university were given a questionnaire. The image and the motivation were measured using Visual Analogue Scale (VAS) in this questionnaire. The result of the correlation between the image and the motivation, is that second grade lower than first grade students, and third grade students were the highest. At the stage that an accurate image was established, it was thought that the image influences the motivation.

Key Words : physical therapy student
occupational therapy student
image
motivation